

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成2年1月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104969
法人名	東開メディカル有限会社
事業所名	グループホーム灯夢想家
所在地	鹿児島市東開町3-21 (電話) 099-260-3030
自己評価作成日	令和1年12月21日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・人間性を尊重し愛情あふれる真心のサービスの提供ができるよう、スタッフは日々認知症のケアについて研鑽しており、施設内外の研修や多職種との交流も積極的に行っている。

・木の香りに包まれた心地よい癒しの空間作りのため、日々花が飾られ、季節によっては飾りをする事で雰囲気作りに努め、日中は玄関を開放し、本人、ご家族ともに自由に出入りのできる環境となっています。

・家族との絆も大切に、本人の暮らしをご家族とともに支えるとの思いから、本人の状態に応じてご家族との情報の共有に努め、穏やかな時間がながれ、本人が主体的に暮らすことができるようなケアに努めています。

・地域社会と密着した環境作りとして、町内会や区域の運動会、老人クラブに参加し、入居者様が楽しい時間を過ごすことができるような環境作りに努めています。

・医療との連携により異常の早期発見、対応に努め、本人、ご家族が望む際には可能な限り最期まで共に過ごします。

ホームは木造2階建てで商業団地の一角に位置しており、近くには産業道路が通っているが、緑地公園等の自然に囲まれた環境にある。利用者の人間性を尊重し、家族との絆や地域との関わりを大事にしながら、利用者の訴えに耳を傾け、木の香りに包まれた心地良い空間で穏やかに過ごしてほしいという理念に込められた思いを実現し、利用者の生活の質を守るために、管理者と職員が協力しあって支援している。

利用者や家族との関わりについては、常に利用者の目線で意思疎通を図り、家族と意思を共有して一緒に支えていく姿勢で臨んでいる。重度化した場合や終末期においては、馴染みの環境の中で生活を支える延長上に看取りが存在すると考えており、真心を大切にケアに努めている。

管理者はスタッフ会議やユニット会議、日々のケア等を通して職員の意見・提案を踏まえた上で働きやすい環境づくりに努め、接遇、身体拘束、食事、行事、感染、防災、修理・安全対策の委員会を設置し、職員の声に耳を傾けて業務の改善に活かしている。

職員の育成としては、ホーム内外での研修への参加や資格取得の推進等に積極的に取り組んでおり、サービスの質や働く意欲の向上に繋げている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ．理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日申し送りの際に、理念を基に目標をたてることになっており、理念を共有して実践に繋げることができている。	利用者の人間性を尊重し、家族との絆や地域との関わりを大事にしながら、利用者の訴えに耳を傾ける姿勢を大切にしている。職員は理念に基づいた目標を毎日発表することで理念を身近に感じ、自らのケアを振り返りながら、利用者にとって最も必要なことは何かを意識して支援するように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	おたっしやクラブの行事に参加したり、地域の清掃活動に積極的に参加することで、日常的に地域との交流ができるように努めている。	町内会に加入し、お達者クラブや校区運動会、夏祭り、バザー等に参加している。地域の清掃活動では職員と利用者が一緒に参加し、地元の方々にホームで元気に過ごしていることをアピールできる機会となっている。毎日の散歩や週3回の買い物、お達者クラブの方から作品作りを習うなど、地域住民の一員としてのふれあいや交流に努めている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域との交流や、運営推進会議、家族との話の機会の中で、認知症の方の理解や支援方法について発信している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、ヒヤリハット事例の報告を行い事業所の方針を伝え理解して頂くとともに、ご家族や地域の方の意見を参考にサービスの向上に努めている。	町内会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター、木材産業組合、家族等に毎回電話やファックスで全員参加を呼びかけ、2か月毎に2階のフロアで日常の様子を見てもらいながら、利用者や活動・運営の状況、実例を基にしたヒヤリハット等を議題として、忘年会や行事後に開催している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の担当の方や、相談員の受け入れ、地域包括支援センターのスタッフなどとの関わりを通して連携を図っている。	利用者の中には生活保護受給者も数名おり、市の担当者や介護相談員、地域包括支援センター職員との連携はもちろん、介護保険申請、グループホーム管理者会議、地域ケア会議への参加等、市との協力関係を維持しながらサービス提供に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠はせず、入居者やご家族は自由に出入りできる環境にあり、会議において、センサーマットの使用や向精神薬の服用の必要性について検討するなどして身体拘束をしないケアについて考える機会を適宜持っている。	身体拘束廃止委員会は2か月毎に開催し、内部研修や勉強会を通して虐待防止を含めた事例検討、身体拘束の3原則、利用者について良く知るためのアセスメントシートの活用等、全職員が理解してスキルアップを図り、利用者の安全を確保しつつ自由な暮らしを支援できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に虐待について考える機会があり、日常のケアの中にどのようなことが虐待にあたるのか、申し送りや会議における事例検討によって虐待防止の意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用し弁護士が保佐人となっている入居者もあり、権利擁護を理解する機会がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定時は、運営推進会議や書面にて通知をし、ご理解を頂くとともに、入院に伴う解約などの不安については丁寧に説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、ご家族や地域の住民、第三者が参加する中で意見交換ができるようになっており、その意見を運営に反映させている。	利用者及び家族からは、日々の関わりや面会等を通して意見・要望を聞き取り、家族へは利用者の身体状況の変化を伝えたりリスクの共有に努めるなど、家族と共に支えていきたいという姿勢を大切にして、お互いの信頼関係を構築している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議などで運営におけるスタッフの意見や提案を受け、法人の方針に合うかどうか検討し、適宜反映させている。	スタッフ会議とユニット会議を交互に隔月で開催して職員からの意見・提案を受け、利用者の生活の質を守るという視点からホームとしてどのように対応すべきかを検討し、利用者中心のケアに繋げている。管理者はより良い職場環境作りのために意見交換や意思疎通を図り、業務変更への対応や資格取得へのバックアップ等にも積極的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算の取得に伴い、査定による評価や、スタッフの環境に伴うシフトの提案によって個々が継続して就労できるような職場環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃のケアの中で、認知症のケアについて考える機会があり、その都度スタッフ同士で意見交換をしながら意識を高めている。また、法人内外の研修についても積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は谷山圏内の管理者会議や多職種連携会議において同業者との交流の機会を持ち、スタッフも研修などを通して同業者との交流を図り、その関わりがサービスの質の向上に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に本人の状態把握をし、GHにて不安なく過ごすことができるよう努めており、入居後は本人との関係作りのために受容と傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からご家族の不安なことや要望に聞き、入居者本人の生活をご家族と共に支えるとの思いから、ご家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人の状態に応じて、専門医受診や福祉用具の利用など、必要なサービスの利用ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の今までの暮らしを尊重し、主体的に生活を送れるような環境作りに努めており、スタッフ自身は、入居者とのコミュニケーションを通して、関係作りを意識している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に入居者を支えるために情報の共有に努め、本人の状態の変化に応じてケアの方向性を共に考えている。日々本人、ご家族の思いを尊重したケアが行えるよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	宗教の関係の人や友人関係、美容室の継続利用といった馴染みの関係が継続されるような環境作りや支援に努めている。	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や地域との関係を把握し、その繋がりを維持できるように、家族の協力をもらいながら電話、手紙の取り次ぎ、本人が行きたい所への外出・外泊等の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互いの役割意識を持って日々の生活を送っており、お互いに気遣い、支えあう関係ができている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても(看取りを終えても)ご家族から他の家族の相談があるなどして継続して相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは入居者やご家族との日々のコミュニケーションの中で本人の希望や意向の把握に努めており、本人らしく過ごすことができるよう努めている。	日々の関わりを通して、利用者の言動や表情等から思いや希望を汲み取り、利用者本人の人生を本人の為に生活の質の向上を図りながら、家族と共に家族の思いも支えながら一緒に頑張る気持ちで支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通して情報の把握に努めるとともに、日々のやり取りの中で本人の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態に応じてケアの在り方を工夫しており、本人らしく暮らすことができるよう現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングにて本人の状態を振り返り、日々の状態についてご家族の意向を反映し、スタッフとは日々の申し送りや会議の中で本人の状態に即したケアの実施ができるよう話す機会を持ち、それを参考に介護計画を作成している。	利用者や家族の意見・希望をしっかりと把握するために、アセスメント情報を正確に収集して利用者及び家族について知ることが最も重要と考えている。介護計画は申し送りやスタッフ会議を通して普段から職員の意見を聞き、3か月毎に評価し、6か月毎にモニタリングして作成している。利用者の状態変化に合わせて見直し、計画変更するなど臨機応変に対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を重視し、本人とのやりとりや状態を記載して情報の共有に努めており、ご家族も記録の閲覧をして頂き情報の共有に努めている。またその情報をもとに介護支援経過記録を作成しており、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態やニーズによって柔軟な対応ができるよう日々模索しており、ご家族との協力のもと入居者の生活を支えることができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のスーパーで買い物をしたり、おたっしやクラブに参加したりして、地域資源と協働しながら豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を伺い、本人やご家族の希望の医療と連携できるよう支援しており、必要に応じて外来受診の支援も行っている。	利用者・家族が安心して継続的な医療を受けられるように協力医療機関と連携を密に図り、24時間連携体制の下で隔週で訪問診療を実施してもらっている。他科受診や外来通院等は家族の協力を得て支援し、特に整形外科のリハビリは継続することにより利用者の日常生活動作の可動域が広がり、少しでも自力で動ける等の効果が得られている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回ホーム看護師が状態確認をしており、看護師の気付きにより主治医に報告、相談し適切な医療を受けることができるようにし、また入居者から看護師に相談もあり、共に入居者の暮らしを支えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が受診・入院するにはご家族に意向を伺い、希望に沿った対応ができるよう努め、スムーズに受入ができるように医療関係者との情報の共有に努め、また日頃から関係作りを意識している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について家族と話す機会を持ち、本人、ご家族の意向に添い、施設で看とすることで本人の不利益にならない状態の場合は看取る方針をとっており、入居者の最期が穏やかなものとなるよう適宜家族の意向を伺いながら対応を検討している。	重度化や終末期のケアについては、看取りに関する指針を入居時に説明し、事前意思確認書と共に同意を得ている。看取りはこれまで2例体験し、利用者の状態変化に伴い日々の支援の中でその必要性を感じながら、生活を支える延長上に看取りがあると考えている。普段の生活環境の中で最期まで過ごしてほしいという家族や職員の願いが叶えられるような支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々ご家族とリスクの共有をしており、急変時の対応のご意向を伺って意思の確認をしており、ヒヤリハット事例などを通して急変時の対応について振り返りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震想定で年3回避難訓練を実施し、運営推進会議にて避難訓練を実施することで地域への協力を得られる体制作りに努めている。	夜間想定2回を含めて年3回、隣接の有料老人ホームと合同で避難訓練を実施しており、町内会の協力は難しい現状にあるが日々の関わりにより近隣の協力は得られている。非常食はユニット毎に賞味期限を記入して管理しており、防災用品や手作りの防災頭巾も準備され、火災報知システムや連絡網により関係機関との連携を取りながら、実践的な防災対策に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を立ち上げ、会議にて入居者への対応を意識する機会を持ち、一人ひとりを尊重する意味を考えながら日々のケアにあたっている。	職員が利用者の尊厳と権利を守るために考える機会を通して意識づけされるように、2年前から接遇委員会をスタッフ会議の中で2か月毎に実施している。利用者への呼びかけは目上の人であることや馴染みがあることだけでなく、利用者の生活歴を踏まえて考慮する等、対応には十分気をつけて支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が主体的に暮らすこととは、自己決定できる機会をもつことで、お茶をセレクトにするなど、日常の中で自己決定のできる場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者との関わりを通して、本人のニーズに合ったケアを尊重しており、希望に沿って外出支援をしたり、作品作りをしたりし、本人の趣味に応じてこちらから提案することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	催しや外出の際にはおしゃれをしたり、お化粧をしたりして気持ちから盛り上げることができるような支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューには季節にあったものや入居者のリクエストを取り入れ、入居者とともに調理をし、片付けをしている。ピクニックや外でお茶をするなどの場面作りも意識している。	利用者の能力を生かして食事形態を工夫する等、基本的には食事介助をせずに自力で食べられる支援を大切にしている。季節に合った食材でリクエストメニューや外食、出前等もあり、利用者は下ごしらえ、準備・後片付け、食器洗いの手伝いを行い、職員も利用者と共に食事を楽しめる支援に努めている。	

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて補助食品を使用し、本人が食べやすいような食事形態やカトラリーを工夫して食事や水分の確保の支援を行っている。また必要以上の食事介助はしないよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、個々の能力に応じて介助を行い、必要に応じて歯科往診を依頼し、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	アセスメントを行い本人の能力や排便の状態に応じて布パンツやパット使用などを見極めており、トイレで気持ち良く排泄ができるよう適宜支援内容を見直し、自立支援に努めている。	利用者の排泄パターンは日々のケアを通して把握し、生活習慣や身体状況も勘案して本人が希望する形で支援できるように努めている。トイレでの排泄を基本としているが、本人にとって優先すべきこと、睡眠や食事摂取等の状況を考慮しながら自尊心やプライバシーを侵害しない声かけを行い、排泄の自立を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄のアセスメントを通して医療と連携して内服の調整をするとともに、食事内容に食物繊維の含む食材の使用を検討したり、運動を取り入れるなどして便秘の予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	原則週4回入浴日を設定しているが、皮膚疾患などによって毎日清拭や足浴、陰洗を実施し、保清に努め、介助が必要になっても湯舟に浸かることができるよう介助を工夫している。	入浴は週4日、1対1の個浴で実施しており、利用者の身体状況や必要性に応じて回数・曜日にこだわらずに支援している。入浴の順番はくじ引きで決められ、入浴剤は使用せず、ゆず湯等により季節を感じられるような工夫をしたり、入浴をためらう利用者には時間やタイミングを変える等柔軟な対応がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠は、日中の活動を活性化することで心地よい睡眠の誘いを目指し、本人の状態に応じて午睡を促すなど気持ちよく一日を過ごすことができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	業務日誌に内服の変更について記録してスタッフ間で情報の共有に努めており、本人の状態によって内服の形態や服薬方法を適宜見直している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や裁縫、家事参加、ドライブ、外出や外泊など、入居者様がその人らしく暮らし、自由に楽しみごとや気分転換ができるよう環境作りに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に3回買い物外出があり、季節に応じたドライブや外気浴の機会もある。またおたっしやクラブに参加し地域との交流を図っており、家族とは自由に外出ができるよう環境作りに努めている。	週3回は買い物に出かけるが、食材だけでなく利用者の希望する物を買うこともあり、家族と一緒に付き添うこともある。外出でにくい利用者の場合でも体調や天候に合わせて散歩したり、ホーム玄関先の椅子でお茶や外気浴を楽しんだりする等、少しでも移乗・移動を通して丁寧な生活リハビリを行うことで、利用者のモチベーションを向上させる働きかけに努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持、管理することでのリスクをご家族と共有した上で自己管理をして頂き、外出した際に自由に買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が電話をかけたり、受けたり、年賀状のやり取りをしたり、関係継続のための支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花が常に飾られており、カレンダーや壁面で四季を感じることができるような環境作りに努めている。スタッフの声の掛け合いが入居者にとって騒音とならないよう意識をし、心地よく過ごすことができるよう努めている。	木造2階建てで温かみを感じられる建物となっており、共有スペースには利用者の作品や書き初め等が飾られ、お茶を飲んで談笑したり調理の準備・下ごしらえを手伝う姿が見られる。4.5畳のスペースでは利用者が横になったり洗濯物をたたむ等、ゆったりと落ち着いて家庭的な生活感あふれる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチ、居間にソファがあり、和室に畳があり外気浴をしたり、横になったり、入居者様が思い思いに過ごすことができるような居場所作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は、本人が使い慣れたものを持ち込んで頂き、本人が今までの生活の延長にあるような環境で居心地よく過ごすことができるよう配置なども工夫し、環境作りに努めている。	居室にはエアコンが備えられており、利用者の馴染みの物は何でも持ち込むことができ、プライバシーに配慮しながら居心地よく過ごせるような工夫に努めている。ベッドやタンス等の大きい家具は以前の利用者が残した物が多く、各ユニットに1室ずつある特室にはトイレ・洗面所があり、夫婦で入居して隣同士に生活している利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや出口を表示し、個々に応じて表札をつけることで自室が分かるようにし、カウンターでは自由に生け花をし、台所にも自由に入ることができるような環境作りに努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない